

喫煙によりがんサバイバーの二次がんのリスク 3 倍以上に

肺、膀胱、腎臓、頭頸部のがんは喫煙との関連が強いことが知られているが、がんを経験した生存者（以下、がんサバイバー）における二次がんのリスクに関するデータはわずかである。そこで本研究では、喫煙が関連するがんの生存者について、初回のがん診断前の喫煙状況と一次がんとは異なる部位の喫煙関連性二次がんのリスクとの関係について検討した。

5つのコホート研究に登録されたがんサバイバー（ステージ I 肺がん 2,552 例、膀胱がん 6,386 例、腎臓がん 3,179 例、頭頸部がん 2,967 例）を対象とし、統計学的に解析した。その結果、非喫煙者に比べ、初回のがん診断前に一日の喫煙本数が 20 本以上のがんサバイバーでは、一次がんとは異なる部位の喫煙関連性二次がんのリスクは高く、ハザード比はそれぞれ、ステージ I 肺がん群で 3.26、膀胱がん群で 3.67、頭頸部がん群で 4.45、腎臓がん群で 5.33 となった。この結果は、喫煙と喫煙関連性一次がんとの関連の強さ（ハザード比：5.41）と同程度であった。

今回の研究により、初回のがん診断前の喫煙習慣が、一次がんとは異なる部位の喫煙関連性二次がんのリスクを 3～5 倍増大させることが示された。

出典：Journal of Clinical Oncology. Published online Nov 10, 2014;

doi: 10.1200/JCO.2014.56.8220